

## 会 議 録

### 1 会議名

平成29年度 第4回金谷区地域協議会

### 2 議題（公開・非公開の別）

(1) 平成29年度地域活動支援事業の採択結果について（公開）

(2) 自主的審議事項「金谷区小学校区(特に黒田小学校区)における地域連携施設の設置について」（公開）

### 3 開催日時

平成29年6月28日（水） 午後5時57分から午後8時38分まで

### 4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

### 5 傍聴人の数

2人

### 6 非公開の理由

—

### 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：高宮宏一(会長)、川住健作(副会長)、村田敏昭(副会長)、伊崎博幸、石野伸二、伊藤三重子、桑山敏男、齋藤邦博、高橋敏光、竹内恵市

・教育委員会事務局：教育総務課 親跡参事

学校教育課 手塚副課長、笹川管理指導主事

・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、槇島係長、小林主事

### 8 発言の内容

#### 【小林主事】

・牛木委員、土屋委員、永野委員、西条委員、山口委員、吉村委員を除く10名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第8条第1項の規定により、議長は高宮会長が務めることを報告

#### 【高宮会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：伊藤委員、桑山委員に依頼

—次第2 議題等の確認—

【高宮会長】

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

【高宮会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

—次第3 報告(1)平成29年度地域活動支援事業の採択結果について—

【高宮会長】

次第3 報告(1)「平成29年度地域活動支援事業の採択結果について」、事務局に説明を求める

【佐藤センター長】

資料No.1により説明。

【高宮会長】

整理No.4「金谷山太鼓継承・進行事業」の附帯意見は、正副会長で検討し資料No.1右下のとおりとした。

ただ今の説明について、質疑を求める。

【石野委員】

附帯意見は、提案者へ書面で知らせるのか。

【高宮会長】

事務局を通じて提案者へ送っている。

提案者からは了解したと返事は来ているか。

### 【榎島係長】

附帯意見についてはこの文面で送ってある。それに対する回答はこちらからは求めている。また先方からの連絡も受けていない。

### 【高宮会長】

基本審査で不採択となった事業について、「適合しない」理由の一覧を委員に配布した。

不採択となった事業の提案者には、「審査・採点者の過半数が基本審査で『適合しない』と判断したため」と不採択となった理由を伝えているが、「適合しない」と判断した具体的な理由は伝えていない。

「適合しない」理由を提案者に伝えるかどうか、決めたい。また、伝える場合、その内容をホームページ上に会議録とともに公開するかどうかを決めたい。なお、「適合しない」理由を提案者に伝える場合は、内容を整理しまとめたい。

まず、「適合しない」理由を提案者に伝えるかどうかについて、採決を行いたいかどうか。

### 【高橋委員】

不採択となった二つの団体の提案者に会ったが、協議会の判断でそうなったのだから仕方ない、とのことだった。「適合しない」理由を伝える必要はない。

### 【伊藤委員】

あちらから聞いてこないのは、おかしい。

### 【村田副会長】

私も不採択団体の一つに、当日夜「不採択になった」と伝えた。皆さんが書かれたようなことを伝えたつもりであり、理解していただけたと思う。

もう知らせてあるのに、また「理由はこうだった」と言うのはいかなものか。ましてホームページで公開するのはいかなものか、という思いが強くある。

### 【石野委員】

これは委員から出てきた理由の全部だと思う。資料No.1の審査採択結果に、「こういう意見が多かった」と書く程度でよいのではないか。提案者には伝えなくてもよい。

**【村田副会長】**

ホームページに記載するのであれば、提案団体にも知らせるのが筋。ホームページに載ったことを自分たちが知らないのは理にかなわない。

高橋委員のとおり、今さら聞かされてもという感じだと思う。

皆さんの意見で採否を決めてほしい。

**【高宮会長】**

まず、提案者に「適合しない」理由を知らせるかどうかについて、決を採りたいと思うがどうか。

**【竹内委員】**

今回は時機を逸した。委員が対応したこともあったので、今年度はこのままの方がいいのではないか。来年以降は、理由を箇条書きで載せた方がよい。

**【高宮会長】**

「適合しない」理由を提案者に伝えるかどうか、採決してよいか。

**【石野委員】**

それは平成29年度に限っての採決か。

**【高宮会長】**

29年度についてである。30年度に地域活動支援事業があれば、また協議会の中で決めていけばよい。

「適合しない」理由を事業提案者に伝えることを諮り、全員の反対により事業提案者に伝えないことと決する。

**【石野委員】**

「平成29年度」とうたってほしい。そうしないと、ずっと「前に決めた」と言われる。

**【高宮会長】**

先ほども話したように、29年度の地域活動支援事業についてである。30年になれば、そのときにまた決めていけばよい。

**【石野委員】**

会議録に「29年度」という文字が入っていないと困る。

【高宮会長】

そういう解釈にはならないのではないか。

【石野委員】

会議録は誰が読んでも同じ解釈をしてもらわないといけない。

【高宮会長】

では「29年度」と文字を入れることでよいか。

【高橋委員】

「29年度だけ」か。

【高宮会長】

「だけ」というより、「29年度の支援事業については」。

【高橋委員】

例えば金谷北地区元気会の提案は、最初に提案した時には、これは活動になっていないため駄目だと南部まちづくりセンターで言われた。

提案してきたものは全部受けているような格好である。その辺をよく考えてもらわないと、こういう結果がたくさん出てくる。完全に駄目だと分かっているものは、受付で「地域活動支援事業ではない」としてもらわないと、ずっと提案が出てくる。南部まちづくりセンターで受け付けなかった提案はあるか。

【榎島係長】

今年度の金谷区の提案において、特に金谷北地区農村元気会については私どもで疑義を覚えたが、市の自治・地域振興課と協議を行い、こういう内容であれば受付は可能だという判断が出た。その内容で皆さんに案内している。それまでに、これは受付できる内容ではないというやり取りも提案者とさせていただいている。

【高橋委員】

当初は受付がとても厳しかった。「これをしたい」と言っても、「地域のためでなく団体のためではないか。考え直してきてほしい」と、受付自体してくれなかった。

実際に断った案件はあるのか。

【榎島係長】

結果的に断ったものはない。担当している4つの区では、活動がないため活動を

伴った提案にするようお願いし、内容を修正したものを受け付けている。最初、受付できない内容でいったんお断りをしている。

**【高橋委員】**

分かった。

**【高宮会長】**

「29年度の支援事業」と入れた方がいいという話だが、今は29年度の支援事業の結果について話しているためよいのではないかと思うが、委員に意見を求める。

**【伊崎委員】**

石野委員のとおり、私は入れた方がよいと考える。今年度は高橋委員と村田副会長から提案者に「適合しない」理由を話しているため問題ないが、今後提案が多くなった場合、提案者に不採択という結果しか伝わらなくなってしまう。不採択の理由を提案者に伝えれば、事業の改善につながる。ホームページに載せれば、今後別の団体が提案する際の参考になる。次年度以降も不採択事業が出る可能性があるため、「29年度」は入れた方がよい。

**【石野委員】**

過去の案件を調べた時に、不採択になった理由がホームページに載っていなかった。そのため、過去のものが分かるように要約したコメントをどこかに示した方がよいと提案した。本人に通知しなくても、そういうことは必要。

**【村田副会長】**

5月16日に基本審査、5月24日に共通審査を行った。16日の基本審査の結果は、不採択となった事業者には連絡してある。今日は6月28日である。来年も同じようなスケジュールであれば、不採択となった団体へ1か月も遅れて伝えるのか。「今さら」でもよいのではないかという考え方も出てくる。

**【石野委員】**

提案者に知らせるのと、私たちが過去どうだったかを確認するために、どこかに残した方がいいのではないか。

16日に基本審査を行った。本来は24日にこれを論議すべきだった。

**【村田副会長】**

来年度以降は速やかな対応が必要である。24日までの一週間で不採択になった団体に知らせることができれば、本人には通知してあるため、それをホームページに載せても理不尽ではない。

28区で見ても、今まで不採択の理由は書いているところはないのではないか。例えば、採用試験に不採用になったからといって、会社はその理由を言わない。

**【石野委員】**

一覧の中から抜粋して、「こういう意見が多かった」と表したらどうかと言っている。

**【高橋委員】**

今までは伝えていない。

**【石野委員】**

他の区では、「そういう意見があった」と、採択されても伝えていっているところもある。

**【高橋委員】**

求められたら返事をしないとイケないが、提案者は求めている。

**【村田副会長】**

内部資料として置いてあれば分かるだろう。求めてこないところには教えず、協議会委員として過去のデータがどうだったのかを確認できるよう、ホームページには載せないで内部資料として残したらどうか。

**【石野委員】**

事務局に尋ねたときにそれが出てくる、という取り決めが必要。

**【竹内委員】**

今年度はこれで終わりとし、次年度についてはこれから検討のうえ発表することに決まったら、そのとおりにすることでどうか。

**【石野委員】**

それでよい。

**【高宮会長】**

「『適合しない』理由を事業提案者に伝えるか」の採決には、「平成29年度」を入れないことを諮り、委員全員の了承を得る。

30年度以降については、地域活動支援事業の審査・採択のルール等を速やかに協議して決めることを諮り、委員全員の了承を得る。

【桑山委員】

それはいつ決めるのか。

【高宮会長】

今後、地域活動支援事業が継続されるかどうか分からない。今までどおり地域活動支援事業を実施するとなった時点で、金谷区地域協議会のルールとして決めていけばよいのではないか。

【桑山委員】

はい。

【石野委員】

事業実施が決まるまでは次年度以降の地域活動支援事業の話をして意味がない可能性もあるため、保留ということか。

【高宮会長】

各委員が常に考え、意見や考えを書き留めておいてほしい。実施するかどうか分からないのに、今その話を持ち出してもどうにもならない。

【石野委員】

実施が決まるまでは一切手を付けないということか。

【高宮会長】

今後、方針が出るはずである。

【石野委員】

昨年は7月か8月に審査・採択のルールの見直しに関する意見照会があった。今年の方針が出るまでそういう動きは一切ないのか確認したい。

【高宮会長】

それは分からない。

【石野委員】

続くかどうか分からないのなら、やらない方がよいのではないか。

【川住副会長】



あるという前提で進めるしかないのでは。

**【石野委員】**

あるという前提であれば、タイムリーにしていくべきだと思う。

**【榎島係長】**

昨年度は地域活動支援事業の審査が終わったあと、記憶が新しいうちに、すぐに意見をいただいた。早めに準備をしていただきたいということもあるため、次年度も実施されることを前提に、昨年同様のスケジュールで正副会長と相談を進めていきたいと考えている。

**【高宮会長】**

昨年同様のスケジュールで進めることを諮り、委員全員の了承を得る。

**【高橋委員】**

事業を見直して廃止することになっても、すぐにはやめない。1、2年の猶予期間を見ながら、期限を決めてやめると思う。

**【高宮会長】**

昨年同様でよいか確認し、委員全員の了承を得る。

次に、基本審査で「適合しない」理由を会議録とともに公開するかどうかについてだが、提案者には伝えないことに決まったため、私は資料No.1の審査・採択結果だけでよいと思うが、このことについて委員に意見を求める。

**【村田副会長】**

今年度はそれでよい。

**【高宮会長】**

「適合しない」理由を会議録とともに公開するか。

**【石野委員】**

会議録とはどのようなことか。

**【高宮会長】**

ホームページに載せるものである。

**【石野委員】**

「適合しない」理由の一覧の内容を載せるということか。

【高宮会長】

そうである。

【石野委員】

これは会議録ではない。

【高橋委員】

結果報告は不採択になった分まで書かなくてもよい。採択された分だけホームページに載せれば。

【石野委員】

全区で資料No.1のようなかたちになっている。

【高橋委員】

ホームページで見たことがないので分からない。

【石野委員】

採択された分は、ホームページ上の別の場所で「本年度採択一覧」というかたちで載る。その中には不採択のものは載らない。そして資料No.1は地域協議会の会議資料としてホームページに載る。

【高橋委員】

地域協議会だよりに採択事業一覧が載っているが、それだけではまずいのか。全区に配布されている。それ以上に何かいるのか。

【石野委員】

資料No.1の内容は、会議資料として全区で載っている。それを公開するよう決められているのかは分からないが。

【竹内委員】

不採択分も全部ホームページに載るのか。

【石野委員】

地域自治区ごとにページがあり、今日の会議録と使った資料が載る。そこを開くと、審査・採択結果が載っている。

【竹内委員】

分かった。

**【高宮会長】**

「適合しない」理由を会議録とともに公開するかどうかについては、公開しないことでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

一次第4議題(1)自主的審議事項「金谷区小学校区(特に黒田小学校区)における地域連携施設の設置について」一

**【高宮会長】**

次第4議題(1)「自主的審議事項『金谷区小学校区(特に黒田小学校区)における地域連携施設の設置について』」に入る。

正副会長で協議し、市全体の現状や取組を承知することから始めることが必要と考え、今回教育総務課と学校教育課の説明を受けることとした。

担当課の説明を聞き、質疑を行った後、委員による審議に入りたい。

教育総務課と学校教育課に説明を求める。

**【学校教育課 笹川管理指導主事】**

当日配布資料No.1により説明。

**【教育総務課 親跡参事】**

施設の現状等について説明する。

提案書の中で言われている地域連携施設と地域連携室は、違うものだと思っている。上越市内の小中学校では、子どもと地域の方がふれあい、地域の方が会合等で使うような地域連携施設は現在持っていない。地域連携室、部屋として活用しているところはある。市内全76校の小・中学校のうち、地域連携室として単独で部屋を持っている学校が14校、黒田小学校と同じように会議室や校長室等が地域連携室を兼ねている学校が62校。

地域連携室は、学校運営協議会やPTAの会合、学校ボランティアの打合せなど、学校の職員や児童とかかわるための打合せ場所として使っている。

金谷地区では、城西中学校は単独で地域連携室を持っている。飯小学校も校舎を改築した当初は地域連携室を作ったが、転校により児童が増えたため、地域連携室

を教室に変更し、1階の会議室を地域連携室として兼用している。

黒田小学校が地域の皆さんといろいろな活動をしてきているのは、教育委員会でも承知している。活動場所は、主に体育館や各教室を使っており、子どもたちの活動によって場所を変えている。例えば田んぼで一緒に米を作る場合、その振り返りは教室で話をする。

黒田小学校職員とも意見交換をしたが、現状の使い方に問題はないと聞いている。

学校職員としては、地域の皆さんとのふれあいがとても大事であり、これからも大いに進めていくべきものだと思う。そのための打合せの部屋は、兼用等により確保していくのがよい。一緒に活動できるスペースとなると、現状の学校では厳しいため、公民館等を活用された方がよい。

**【高宮会長】**

教育総務課と学校教育課の説明について質疑を求める。

**【川住副会長】**

黒田小学校は非常に珍しいケースだと思う。最近はどここの学校も人数が減る中で、人数が増えている。それも大量に増えるのではなく、2、3人増えたために、2年生と4年生が2クラスになっている。そのため図書室と4年生の教室がプレハブになっている。それから図工室と多目的室も普通教室。教室自体が非常に不足している。その中で、地域連携室を要望した場合、予算は限られているため、教育委員会としては、一番大事な児童の教室が優先されると思うが、その辺はいかかが。

**【親跡参事】**

黒田小学校は、今後大規模改修を予定しているが、子どもたちの生活環境、学習環境を第一に考え、体育館や校舎の外壁を優先的に進めていくことになる。

**【川住副会長】**

今のところ教室を増やす予定はないか。今の2年生が2クラスのままだと、4年先までは教室が足りなくなるが、今のプレハブ等で対処するのか。

**【親跡参事】**

その予定である。

**【石野委員】**

「上越市の学校・地域連携の取組」の決定者は誰か。市長か、教育長か。

**【親跡参事】**

取組の決定者とは。

**【石野委員】**

教育委員会是这样であるということが当日配布資料No.1に表れていると思うが、この決定者は教育長か、市長か。

**【親跡参事】**

教育委員会内部では教育長が決裁する。そのあとに市長が決裁する。市の建物については市長が最終責任者である。

**【石野委員】**

この取組については、教育委員会の中で論議して決定し、市長がそれを承認したということか。

**【親跡参事】**

そのとおり。

**【石野委員】**

上越市の総合教育プランからいろいろ抜粋していると思うが、そのままプランの中に載っているわけではない。

**【笹川管理指導主事】**

当日配布資料No.1については、今回、学校と地域の連携について話をしてほしいということで、私が担当している学校運営協議会を中心に、制度の狙い、現状、今後の方向性を理解していただくよう、この会議のために私が作り上げた資料である。

**【石野委員】**

こういうことが教育委員会の中で公開されこれに則り進めているのか、今回のために作られたのかが分からなかったため、聞いた。

**【笹川管理指導主事】**

背景には国の施策があり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき学校運営協議会制度が設けられている。それに則って上越市では学校運営協議会規則を作り、その中に学校運営協議会の役割や、手続き上のことが示されている。

当日配布資料No.1の前半「コミュニティ・スクールが目指すもの」までは、主にコミュニティ・スクールに関する国の考えやねらいを、文部科学省のデータなどから抜粋して作ったものである。

後半については、上越市でそれを取り入れた結果と、今後の方向性について考えをまとめたものである。

#### 【親跡参事】

昨年、第二次総合教育プランを策定して公開したが、地域連携については重要な施策として位置づけてある。当日配布資料No.1に書かれていることともほとんど一致しており、問題はない。

#### 【齋藤委員】

私は飯小学校の学校運営協議会委員をしており、先生がきめ細かく的確な具体的で論理的な説明をしてくれるが、地域の一住民である自分は平素から関わりがなく、なかなか理解が進まない部分もある。

コミュニティ・スクールは、どのように地域が学校と連携していくか、要は学校側が地域に助けを求める部分もある。

いじめの問題でも、教育長に情報が上がっても細かい具体的な話が分かりづらい。だから報道を見ても解決の部分でなかなかかみ合っていない。やはり学校や先生方、同じ仲間同士の中では解決できないことが多々あり、第三者機関を入れないと駄目なのではないか。第三者機関に預けるのもいかがとも思うが。

小学生でも中学生でも基本は家庭であり、学校も家庭訪問で家庭の実態を少しでも承知しようと努力されている。

コミュニティ・スクールではいろいろな会議があるが、黒田小学校にはその場所がない。大規模改修ということも予定されているが、その中で地域の皆さんこちらを利用してほしいという話があればよいのだが、先ほどの説明ではそうではないようなので、なんとかならないか。

自分の学校区である飯小学校が非常に立派になったので、少しおすそ分けしたい気持ちもある。黒田小学校は児童が増えたので、教室以外の部分も必要だという切実感がある。それを教育長に酌みとってもらい、場合によっては学校を違う所に移

すこともあってもよいのではないかと思う。学校区は違うが、黒田小学校に連携施設をなんとかお願いしたい。

**【親跡参事】**

大規模改修というのは、あくまでも子どもの教育環境が第一なので、別の施設を作るところまで予算がない。そのため、黒田小学校など市内のほとんどの学校では、地域の方との交流で体育館や教室を活動場所としており、それが望ましい。

また、委員が前段でおっしゃったコミュニティ・スクールと学校の関係には、私どもも賛同する。基本的に、学校がコミュニティ・スクールの皆さんに教育課題を全て隠さずに話をする必要がある。黒田小学校については、地域の皆さんと学校職員で、よりよい校風などについて、十分されていると思うが、まだまだ議論の余地はあると思っている。

**【桑山委員】**

改修工事はいつ頃の計画か。

**【親跡さん参事】**

予定では平成30年から3年間。

**【桑山委員】**

2、3年は現状維持という考えか。

**【親跡参事】**

そのとおり。

最初に校舎、それから体育館、給食室という年次計画。かなり老朽化している部分もある。

**【桑山委員】**

耐震を考えて。

**【親跡参事】**

耐震工事は終わっている。

校区の議員から、体育館の端の方で少し床とのずれがあると連絡いただいている。そういったことも含める。

**【高橋委員】**

当日配布資料No.1に「コミュニティ・スクールが目指すもの」とあるが、私も小・中学校の運営協議会委員をした。学校の方針の説明は細かくするのだが、意見を求められたことから発言したら受け入れられなかった。いじめや同和の問題、同和教育の中身で議論したが、まったく話にならず、言ってもらっても取り上げるわけでもないまま終わってしまった。

コミュニティ・スクールを目指すのはよいが、地域と連携して教育をしているという半分逃げ場のようなものを作ったのがコミュニティ・スクールではないかと強く感じ、その時に不信感を持った。今話しを聞いてみると、先生方の労働、精神的な問題も軽減しないといけない、時間も足りないということで、なかなか思うような教育方針ができていないと思うし、これからも難しいと思う。

地域連携はよいのだが、地域の人たちの意見を聞いても十分な説明もなしに受け入れられないということだったので、自分は気分が悪い形で終わった。その辺はまた学校に上手に話してもらい、地域要望を聞いたり教育の中身を地域に伝えたり。日本は世界の中の成績が落ちてきているようなので地域地域と言っていて成績が落ちてしまっは具合が悪いが。

それから学校には優秀な子もいれば十回言ってもまだ分からない子もいる。心身ともに弱い子どももいるので、大変なことになっている。幸いスマイル教室などを設けてきちんと教育してもらっているので、教育方針は間違っていないが、もう少しコミュニティ・スクールの話合いで、意見を聞いてあげてほしい。

施設の問題だが、黒田小学校の他の2校は、会議室やコミュニティ・スクールの部屋がなくても、立派な部屋がある。私も黒田小学校の中に入り何回も会議に出ているが、校長室で会議というのはおかしい。また、人数が多く学校内でできない会議もあるだろう。人数が多い場合、教室のイスを並べて会議するため、いい会議の雰囲気にならない。黒田小学校も何とかしたいと感じている。私の口から言うのもおかしいのだが、地域の責任者みたいなこともしているの、何とかしてあげたいと思っている。

知っていると思うが、3月末に私と黒田小学校後援会等の名前で中野教育長に要望書を出してある。ひとつ考えていただきたい。



### 【親跡参事】

高橋委員の前段の話の中でのいじめや同和に係る事柄が取り上げられなかったという事実については、教育委員会内部で共有する必要がある。学校運営協議会に参加する学校職員の資質の問題である。その関連でいえば、学校は地域に対して要望を言っているが、地域の要望に学校が必ずしも答えてはいなかった。本当の双方向というのは、そういったことをしっかりしなければならない。そこから学校と地域の信頼が生まれる。

### 【高橋委員】

先ほど、代わりに公民館を使った方がよいと言われたが、公民館についても社会教育課へ話してある。金谷地区公民館は寺町2丁目にあるため、何とか金谷区の方へ。金谷地区公民館は耐震工事もしていないようだし、40年以上たっている。駐車場も狭いし部屋数も足りないので、整備されれば黒田小学校の解決にもなる。

今のところ黒田町内には、耐用年数が終わっているような会館しかないので、その辺も頭に入れて今後考えていただきたい。

### 【高宮会長】

私も今、飯小学校の学校運営協議会に入っているが、大変うまくいっていると感じている。素晴らしい校舎を作ってください、その中で子どもたちも元気に登下校している。飯小学校区においてはオレンジキャップ隊という地域の方が一生懸命子どもたちの安全を見守っている。地域との連携はうまくいっている。

いじめ関係については、前の校長先生の時に、「こういう問題があるがどうか」という話を聞き、対応した経験もある。逆に町内の方から問題があると学校へ相談をしたこともある。

2年前に上昭和町町内に無償で譲渡されたこどもの家には、学校が終わると子どもたちが遊びに来る。そこには上昭和町の子どもよりも近隣の子どもたちが大勢来ている。自由に遊ぶ中でも、規律について話し合っており、大変良い地区だと感じている。

黒田小学校は敷地が狭い。それも地域との兼ね合いになってくる。

— 教育総務課、学校教育課退出 —

**【高宮会長】**

続いて、審議に移る。

自主的審議の流れについて、上越市地域協議会委員手引きをもとに説明。

5月16日の会議で石野委員から配られた資料について、石野委員に説明を求め  
る。

**【石野委員】**

皆さん読んでいると思う。当日配布資料No.2に書かれている意見をざっと見たが、  
ほとんどが書いた内容の要点ごとに出された意見である。

**【高宮会長】**

もう一度説明をお願いします。

**【石野委員】**

コミュニティ活動をするスペースがないことが、一つの課題。ただ、教育委員会  
にスペースを作るよう書いたり言ったりしているわけではない。何か策を実施して  
ほしいということ。なぜあのようなかたちの説明に来られたのか、理解できない。  
教育委員会は自主的審議に上げるなど言いに来たと思っている。

**【高橋委員】**

もう説明は終わってしまっている。自主的審議をしても無駄だ。仮に市に意見書  
を出しても、同じ返事が来る。

**【村田副会長】**

自主的審議をして、意見を取りまとめて提出するつもりだと言えばよかった。

**【高橋委員】**

黒田小学校の後援会会長、子ども会会長、地元代表の石野委員など、7、8人で  
中野教育長へ要望書を出してきたので、担当課は知っているはずである。その返事  
をしなければいけないということで、今日来たのではないか。こちらからの要請も  
あったのだろうが。

**【高宮会長】**

金谷区は飯小学校区、高田西小学校区、黒田小学校区がある。例えば、私は黒田  
小学校区の現状は分からない。

**【高橋委員】**

72校あるうち62校が黒田小学校と同じだと言っている。

今、話があった内容を聞けば、これ以上取り上げても無駄だと思う。

それと前にも言ったが、去年の秋に話した課題もいまだに決まらず、いつ意見書として出すのかもはっきりしない。とにかく遅すぎる。私たちが要望書を出したのは3月末である。

**【高宮会長】**

それは会長のミスだと思う。そうであれば謝る。ただその間にも、地域活動支援事業などいろいろなものが入ってきたため、月1回の会議の中で、これだけにかかわることができなかった。それを理解いただきたい。

前回の会議においても、石野委員から資料をまとめていただいた。そのときに説明を聞けばよかったが、時間が非常にかかる。ある委員からは、時間について意見が出た。会長の進行、把握の仕方が悪いからだ、責任を感じている。今日は午後8時までの2時間程度を予定していたが、過ぎるだろう。

今、学校や教育委員会としての考えについて話があったが、金谷区地域協議会として、「それは分かっているが何とかして欲しい」という意見書を出せばよいのではないか。

石野委員からはここまでまとめていただいたが、各委員の意見をお聞きしたいというのが、正副会長の考え方である。ご理解いただきたい。

**【高橋委員】**

当日配布資料No.2について、会長の意見はないのか。

**【高宮会長】**

私はない。

**【高橋委員】**

応援する気もないのか。

**【高宮会長】**

私は会長であり、まとめていく立場である。

**【高橋委員】**

会長は意見を出せないのか。

4、5人しか意見を出していない。皆が意見を出さなくてはいけない。意見がないということは、どうでもいいということ。

**【村田副会長】**

そういうことではない。石野委員から出された資料は、石野委員1人ではなく、関係者と相談した結果である。多くの委員は、この資料が意見書の原案だと理解していると思う。ただ、それはこの協議会委員の中で協議していないという意見もある。私は、これが地域協議会としての案でよいと思っている。「石野委員の意見でよい」と書けばよかったのかもしれない。会長もそうだと思う。

**【高橋委員】**

分かった。

**【石野委員】**

本日欠席の山口委員と今朝この件について話したが、意見を出さなくてはいいかと言われたため、私の資料で不都合がなければ、それで返したらどうかと言った。

**【村田副会長】**

自分の思いを書いてくれた委員と、石野委員の資料のとおりでよいと思っている委員がいると理解してほしい。決して協力しないということではない。

**【高橋委員】**

分かった。

**【川住副会長】**

黒田小学校の保護者の皆さんの意見を聞いてきた。先ほども話したとおり、教室自体が足りない。そこへ連携室を新たに作ろうにも、どこへ作ったらいいのか。児童はプレハブにいるのに。現状では根本的に無理だと思う。自分の孫が3人小学校へ行っている。2年生と4年生がいるのだが、4年生はプレハブに入っている。話を聞くと、かなりよく作ってあるので不都合は感じていないらしい。これから最低4年間は、クラスが減ることはない。そうすると、連携室をどこに、というのが非常に疑問である。

**【石野委員】**

中野教育長に要望に行った時に、今のランチルームをうまく開放できないか提案し、やりとりをした。踏み込んだ話をしたのだが、実際に動くかどうかは分からない。活用できるスペースの候補はあるが、入口で駄目だと言われたら何もしようがない。

**【川住副会長】**

池田小学校の事件があってから、中からでないと鍵が開かなくなっている。だから、一般の人が自由に出入りすることが可能なのか。先生がついていなければ開けてもらえないのに、自由な交流ができるのか。ランチルームが先生の開錠なしに入れられるのであればよいのだが。

**【石野委員】**

当然、鍵はあるだろう。

時間外にPTAの方が教室で会議をする場合、鍵の関係で会議の間は先生も絶対残らなければならない。だから残業うんぬんと言われている、過剰労働と言われている中で、そういう部分も考慮しているのかと言いたかったが、言わなかった。

**【高宮会長】**

それは学校との話し合いの中で、どういうことになっているのか。これだけの要望書を出したが、その回答を我々は知らない。

**【石野委員】**

回答は何も来ていない。

**【高宮会長】**

だが説明はあっただろう。中野教育長が現地を見たいという話を聞いた。もう終わったのか。

**【石野委員】**

連絡はどこにも来ていないので分からない。PTA会長や後援会会長へも、学校から一切連絡は来ていない。もう3か月たったが。要望書は、行政は無視してもよいし、返事をしなくてもよい。

**【高宮会長】**

だが教育長は見に行きたいと。当然そういう話が出ればもう来ていいわけである。

【石野委員】

教育長が来るのか、その部下が来るのかは分からないが。

【高宮会長】

分からないではなくて、そういう話もきちんと詰めているのかどうか。

それから今のセキュリティ管理にしても、例えば飯小学校の場合、教室の開放が。

【石野委員】

今、飯小学校の話はいい。

【高橋委員】

返事はいただけないが、中野教育長は施設専門の部署の人たちからどういう状態か細かく話を聞いているため、全て把握していると思う。

なかなか予算が取れないということだったため、平成30年から始める工事の中で少しでもいいから新しく組み込んでくれということは、要望書に書いていないが言葉で伝えてきた。その後、進展はない。

【石野委員】

大規模改修は国から助成金をもらうため、外壁や防水などにしか使えない。例えばランチルームの開放については、市の予算の中でしかできないと聞いた。

【齋藤委員】

教育長の方に要望書を出して、そのような話も聞いている。地域協議会としても、それを側面から応援していくということで、地域協議会として市長へ意見書を提出するようにしてもらわないと。要望書が出ているから私たちがやることはない、というのではなく、重複している部分が多々あっても、地域協議会としてなんとか側面援助をした方がよい。

【高宮会長】

村田副会長から、意見を出さない方は皆石野委員に賛同していると話もあったが、さらに皆さんの意見を聞き、地域協議会の意見として意見書にまとめていかなければならない。そのために、具体的な取組など、皆さんの意見を聞きたい。

【石野委員】

取組とはどういうことか。意見集約をすることか。

【高宮会長】

委員各々の考え方を出していただき、それを集約していかなければいけない。

【石野委員】

出されている意見を3項目程度に絞り、要約するのか。

【高宮会長】

意見がなければ、そうなる。それを聞いている。

【石野委員】

私の説明はもうよいだろう。

【高宮会長】

それでよいという話になったが、今回は資料を配っただけで説明がなかった。

他に意見を求める。

【村田副会長】

これだけ具体的に意見が出ているため、これを意見書に。意見書は概ねA4で1ページとのことなので、その取りまとめをどうするか。例えば、三役でとりまとめるといのが皆さんの考えであれば、そのように決めてはどうか。意見は何度も言っているため、いたずらに時間をかけるばかり。議論していないのではないかという考え方もあるが、私は石野委員の意見を集約したものでよい。

余談だが、先ほど親跡参事は、黒田小学校の先生は今の使い方で問題はないと言われた。

【高宮会長】

話が違っている、かい離がある。

【石野委員】

要望書は、校長先生や教頭先生が閲覧、修正している。校長から教育委員会にも聞き、直された文章である。私は理解されていると思っている。

【村田副会長】

それにもかかわらず、先生方は問題ないと言っている。

【石野委員】

最初、要望書の代表者には校長の名前もあったが、削除してくれと言われたので削除した。

【村田副会長】

先生の名前を入れると、内部告発みたいになってしまう。

【石野委員】

これは会議録に載せてもらっては困る。

【高宮会長】

地域協議会としての討論なのでよいのではないか。

【石野委員】

私の意見を言うのはいいが、他の人のことが会議録に載るのは。

【高橋委員】

以前、私の発言について削除させてほしいと連絡が来たことがある。実名を挙げてしまったから。今は簡略化されたが、以前の会議録は全て細かく書いていた。

【高宮会長】

8時を過ぎたが、どうするか。このあと連絡事項もある。また次回にするか。

【竹内委員】

結果的に、出す時期が遅れた。今回の説明が最終回答のようだった。意見書を出すとしたら早い方がよい。

【石野委員】

意見書には、市が必ず回答を出さなければいけない。それを残したい。それで駄目だったら、どういう方法があるか。教育委員会からは、地域と学校、教育委員会との協議の進め方について提案があってもよいが、それすらもない中で、こちらからは何も出さずにやめてしまうのはおかしい。

【齋藤委員】

市長に意見書を提出できるのだから、これを使わない手はない。先行して出された意見もあるが、それもよい参考として、地域協議会としての意見を別にまとめ、市長に意見書を出す。それを市長サイドの目線でいろいろと検討し、話をしてくれると思う。同じものを2つ出すわけではない。会長、副会長でリードして、是非し



ほしい。

**【高宮会長】**

各委員の意見は、石野委員の配布した資料と、当日配布資料No.2の意見に集約されることでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

**【石野委員】**

当日配布資料No.2の意見には、否定的な意見はほとんどない。これに私の意見を加えてまとめればよい。

**【竹内委員】**

これ以上延ばしても、同じことの繰り返しになってしまう。黒田小学校の様子をよく理解していないので、この辺で三役や石野委員が相談して。また、意見書を出す余地がなくなってしまう。効果を求めるなら、この時期に出すのが一番。今ある意見を集約してほしい。

**【高橋委員】**

出された意見のうち、否定的なものはカットして、いいものだけをまとめればよい。

**【齋藤委員】**

意見は大体出ている。私も、石野委員の資料に基づいて今回意見を書いた。100%分かるわけではないが、直接の担当者などいろいろ関わっている方がこのように入っている。意見はかなり集約されてきているため、最終段階として意見書になるようなものを作成してもらい、次回の協議会で出していきたい。それを皆さんを見て、再度意見を求めて手直し等をする。全体で協議できるものを代表の方から創ってもらえば、我々も検討できるので是非してほしい。そうしてもらわないと、何回やっても駄目。今日、良い話も悪い話も聞いた。それを全部フィードバックして、市長へ上げるよいチャンスである。大いに物言いしなくてはいけない。

**【村田副会長】**

第5回協議会は7月26日の予定だが、ちょうど教育長が代わるタイミングである。それが良いか悪いかは別だが、どうなのか。

**【高橋委員】**

今日も教育長に会う会議があったのだが、欠席だった。

上越市租税教育推進協議会の会議があり、話をしようと思ったが欠席だった。他のこともある。

**【石野委員】**

金谷地区振興協議会で市長と話をする機会があり、黒田小学校にこういった課題があると投げかけたら、「私の方で調べるか」と言ったので、待ってほしいと止めた。

**【高宮会長】**

金谷地区振興協議会からしてもらった方がよいのではないか。

**【石野委員】**

振興協議会から出せるのは要望書だけである。

**【高宮会長】**

出された意見を意見書のかたちにまとめ、次回の会議に諮ることでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

**【村田副会長】**

正副会長の打合せに石野委員も参画してとりまとめるのが望ましい。事務局からも考え方を指導してほしい。そういうとりまとめ方で意見書を作ることでよいか。それとも、事務局にまとめてもらうことができるのか。

**【高橋委員】**

それはこちらの仕事である。

**【佐藤センター長】**

提案者は石野委員だが、意見書は皆さん16名の総意として出すため、今までどおり、案を作るのは正副会長になる。

まだ正副会長で作ることができない状態であれば、会議の場で皆さんの意見を聞くことが必要かと思う。

**【石野委員】**

事務局である程度原案を作成していると聞いた。

**【高橋委員】**

役所言葉もあるし、民間の言葉では通じないところもある。

**【高宮会長】**

進行について、流れを全部事務局が作っているのではないか、我々はただ飾りだという考えの方がいると聞いているが、それは全くない。決して事務局に全てを任せているのではない。時間を費やして、打合せをしている。

**【石野委員】**

そんなことは言っていない。事務局である程度作れないのかと聞いている。

**【高宮会長】**

事務局ではなくて委員でまとめてほしいと説明があった。

**【齋藤委員】**

事務局に確認する。その方が効果的。三役が直接事務局に連絡してもらって結構である。それに基づいて三役でまとめ、投げかけてもらえば。

**【高宮会長】**

そういう意見だが、そうすると先ほどの高橋委員のとおり、会長の意見が出ていないという考えが出てくる。

**【高橋委員】**

意見がないからおかしと思ひ、意見はないのかと聞いたら、会長の立場から意見は言えないと言った。

**【高宮会長】**

議長は提案や意見を言うのはやめてくださいと言われた。議長はまとめ役ということである。

**【高橋委員】**

そうではない。

**【高宮会長】**

私はそう言われている。

**【村田副会長】**

会長と川住副会長と、時には石野委員にも連絡を取り、意見を取りまとめた意見書の草案を作り、事務局に投げかけてアドバイスをもらい、7月26日に皆さんに提示する。

【高宮会長】

石野委員を入れては駄目だと言われた。

【村田副会長】

聞いて、ということである。

【石野委員】

7月26日より早い方がよい。

【村田副会長】

7月26日までに意見書案を出すということか。

【石野委員】

3、4日前に渡した方がよい。

【村田副会長】

郵送して、それを見て7月26日に臨むと。

【高橋委員】

だが、先ほども言ったが、意見はないかと言われても、4、5人しか出ていない。

【村田副会長】

それをもとに素案を作るということ。

【高橋委員】

16人中の4、5人では、皆の意見ではないのでは。

【村田副会長】

石野委員の資料を見て、それでよいと思っている委員が大半だと推測している。

【高橋委員】

今日は皆休んでいるから分からない。

【村田副会長】

今日来ている委員もいる。伊藤委員、どうか。

【伊藤委員】

私もそう思っていた。

【村田副会長】

石野委員の資料と、それを基に出された意見を合わせて、あまり否定的な意見を

入れずに素案を作り、26日の前に郵送でお送りして、26日に会議にかける。

【齋藤委員】

それでどうか、諮ってほしい。

【高宮会長】

村田副会長のとおりでよいか諮り、全員の賛成により村田副会長のとおりで決する。

【村田副会長】

事務局、それでよいか。

【佐藤センター長】

正副会長で意見書を作る際に、事務局がその補助をする。

一次第4議題（2）自主的審議に係る提案「金谷区における地域間交流について」

及び次第4議題（3）自主的審議に係る提案「金谷区の安全・安心について」—

【高宮会長】

次第4議題（2）自主的審議に係る提案「金谷区における地域間交流について」  
及び議題（3）自主的審議に係る提案「金谷区の安全・安心について」は、次回以降とする。

一次第5 事務連絡—

【高宮会長】

次第5「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

- ・第5回地域協議会：7月26日（水）午後6時 福祉交流プラザ
- ・地域活動支援事業の追加募集を開始

募集期間6/26（月）～7/7（金）まで

募集要項は当初の内容と同じ。審査が1日になる可能性があることを募集要項に加えた。

- ・地域協議会だより第30号を6月15日に発行
- ・南部まちづくりセンターは7月31日(月)に福祉交流プラザ3階へ移転
- ・当日配布資料No.4(金谷区の地域課題 これまでの意見一覧)配布
- ・主要事業・プロジェクトの概要、ウィズじょうえつからのおたより配布

**【高宮会長】**

事務局の説明について、質疑を求める。

**【村田副会長】**

追加募集の審査の予定について、今の時点では話はできないのか。それとも、26日に審査するのか。

**【佐藤センター長】**

その予定である。

**【石野委員】**

時間は18時からか。

**【佐藤センター長】**

件数による。予定は18時だが、件数が多いれば早める可能性もある。

**【高宮会長】**

今何件来ているか。

**【佐藤センター長】**

正式には出ていないが、相談は1件来ている。

**【高宮会長】**

せいぜい3件くらいだろう。

18時からだと他の議題ができないが、それでよいか諮り、全員の了承を得る。

**【村田副会長】**

基本審査も一緒にするのか。

**【高宮会長】**

一緒にする。

地域課題についてのこれまでの意見一覧を、当日配布資料No.4として皆さんに配布した。地域協議会として取り上げるものがあるかを、次回以降の会議で決めてい

きたい。各委員、検討しておいてほしい。

もう1点、私から。今、上越地域医療センター病院の建て替え、移転が、新聞に出ている。現在地で新築、金谷地区で新築、和田地区で新築の3案が候補地として決まっているような話である。金谷区地域協議会としてこの問題を取り上げなくてよいのか考え、先般三役で話をした。

市としては、あちこちから要望、意見書が出てくると過熱することから、なるべく出さない方が、穏便に行くのではないかと。三役でも、これは取り上げないでおこうと先般話し合った。

これについて、そうではなく取り上げるべきだという意見があれば、お聞かせいただきたい。

**【佐藤センター長】**

取り上げ方による。

現在、上越地域医療センター病院は高田区に建っているため、金谷区が審議できるかどうか、確認が必要。

**【高宮会長】**

金谷地区振興協議会でも、これについて陳情しているか。

**【高橋委員】**

28町内の会長のハンコをもらい、提出してある。上中田北部土地区画整理組合の理事長からもハンコをもらっている。

**【佐藤センター長】**

地域からなら、そういった要望は出せる。

**【高橋委員】**

要望書は、皆が出してくれと言うから出した。

**【佐藤センター長】**

地域から要望は出していただいてよいが、金谷区地域協議会で審議できるのか、確認が必要。

**【高橋委員】**

是非一緒に出してほしい。

【高宮会長】

出してほしいという意見と、過熱することを懸念する声も聞かれている。どうすればよいか悩んでいる。

【伊藤委員】

過熱してもいいのではないか。

【齋藤委員】

市としては、慎重に進めていきたいと思う。地域協議会やいろいろな団体は、自分たちの方へ引っ張ってくる。私たちは要望ではない。その点で冷静な審議を。地域協議会としての立場を尊重すべき。一緒になってしまうと、地域協議会としてのメンツがなくなる。地域協議会の議論としては、私はあまり賛同できない。

【高宮会長】

協議会としては出さないでよいと。

【齋藤委員】

私は。

【高宮会長】

地域協議会委員としての、個人の意見でよい。

【伊崎委員】

詳しく分からないため、皆さんの意見を聞きながら考えを決めたい。

ただ高橋委員の話を聞いて、金谷区では地域住民の声としてハンコをもらっていることは認識できた。

【高橋委員】

川住副会長、何人で行ったか。

【川住副会長】

11人。

【高橋委員】

その時、市長と対面したが、陳情に来る人数は他の地域にも劣らないと苦笑いされた。どうなるかは分からない。

【齋藤委員】



こちらに持ってきてもらえれば、それが一番よい。

#### 【川住副会長】

最初に高田地区で動きがあったと新聞に載ったため、金谷地区の町内会長会や振興協議会を挙げて、上中田北部土地区画整理組合の理事長を伴い、市長室で要望してきた。担当者も同席していた。その際、新聞社は連れて来てくれるなど。市としても、あまり過熱しすぎて、場所が決まった後にしこりが残らないようにしたいのだろう。新幹線からも近く、道路の整備状況も一番だと、立地条件を話して強く要望し、理解していただけたと思っている。高田区や和田区から意見書が出てくれば、また考えなくてはいけないが、今はそこまでしなくてもよい。

#### 【高橋委員】

要望書を出したのは6月。7月に委員会が新しく立ち上がるので、その前に出した。市長が会ってくれるということで、11名で伺い出してきた。

#### 【高宮会長】

当分の間、地域協議会としては静観することによいか。

#### 【齋藤委員】

地域協議会が動けば、向こうは知らん振りできないと思うが、金谷区地域協議会として主体的にするものでもない。

#### 【高宮会長】

採決はしないが、静観することによいか確認を求め、委員全員の了承を得る。

- ・会議の閉会を宣言

#### 9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課  
南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

#### 10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。